

茨城県国際理解教育推進協議会

会長 川俣 勝慶 殿

ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名 ひたちなか市立東石川小学校 担当教諭名 草野 敦子

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

実施日時	平成22年10月20日(水) 9:00 ~ 13:30
対象学年と人数	第6学年(77名)
派遣講師名と出身国	アトラ アルデカニ(オーストラリア) オレリー ノエル(フランス) レン ケイケン(中国) ジョン スウジン・キム ウンジ(韓国) ※インターン学生 川瀬 由紀子(コーディネーター)
活動の内容	・全体会(あいさつ, 紹介など) 【第1部】ワークショップ「テーマ : レヌカのまなび」 【第2部】文化紹介及び交流 ・4つの教室を確保した。5人(4カ国)の外国人講師に、それぞれ、教室で紹介・交流をしていただいた。 ・児童は4班編成。4つの教室を、班ごとに移動(30分単位)しながら交流した。〈4カ国中、3カ国を選択〉 ・紹介及び交流の内容は、国土(地理・自然・名勝など)、文化(言葉・遊び・衣・食・住など)、歴史、社会の様子など。 —昼食— ・閉会(歌の演奏, お礼の言葉など)
今回実施されたワールドキャラバンについて評価	事業に参加しての意見・感想 総合的な学習の時間で国際理解教育としてワールドキャラバンを実施しました。異文化に触れる機会の少ない児童にとって、世界4カ国からの講師の先生方のお話を直接聞いたことは、大変貴重な経験となりました。来年度も本事業に参加させていただきたいと考えています。
生徒・保護者等参加者の感想	・ (日本人ファシリテーターによるワークショップ) レヌカのまなびでは、外国に対して、自分たちの思い込みや偏見に気付きました。パズル感覚で楽しめました。 ・ 外国人の先生の話が分かりやすく、そのうえ、おもしろかったです。外国がとても身近に感じました。視野を広げるよい機会となりました。 ・ 3つの国のことがよく分かりました。自分も講師の先生方のように自国(日本)のことを紹介できるかと考えると、疑問です。もっと、日本のことを理解しなければと改めて思いました。
先生の感想	・ 外国人講師の方がそれぞれにプレゼンテーションを工夫されていました。児童は、メモをとりながら熱心に話を聞き、他国理解が進みました。分かりやすい映像に加え、民族衣装を見せていただいたり、簡単な言葉を教えていただいたり、子供の遊びを実際に体験させていただいたりし、楽しく交流することができました。時間が足りないぐらいでした。 ・ 外国の歴史や文化、人々の生活や風習に興味をもち、多種多様な国々の違いやよさ、日本とのつながり等を理解することができました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

